

京都市の「西京極総合運動公園陸上競技場」を発着とする第70回全国高等学校駅伝競走大会が12月22日に開催された。高校駅伝の日本一を決めるこの大会で、小野隆一郎さん（北海道栄高校・3年）が1区（10km）に出場し、28分55秒で通過順位4位という記録を収めた。各チームのエースがひしめく「花の1区」。過去に日本人選手で28分台の記録を出したのは一人だけ。（2003年の28分54秒）28分55秒は日本人歴代5位となるタイムである。今回はその28

分台が7人もでるといふハイレベルなレースの中、小野さんは終始先頭集団でレースをけん引した。

「最初からいい流れをチームに作りたと思って、区間賞を狙って走りました。区間賞は取れませんでした。自分がこれまで積み上げてきたものは全部出せたんじゃないかと思っています」

チームは30位、前年の21位から順位を落としたが、総合タイムは2時間6分45秒と、前年の2時間8分39秒から1分54秒縮め、北海道栄高校の最速を更新した。また、

1994年の第45回大会で東海大四高校の出した2時間8分20秒を1分35秒更新する北海道最速タイムとなった。

「駅伝は、チーム全員のタイムで競う団体競技ですので、一人一人がチームのために全力を尽くすという強い気持ちが大切だと思います。みんなと同じ気持ちになれるのが駅伝の魅力だと思います」

今ではチームのエースとして活躍している小野さん。人一倍努力し、4月にはハーフマラソンの北海道新記録（1時間9分9秒）、11月には1万mの北海道新記録

（29分16秒36）を樹立するなど着実に力を伸ばしてきた。しかし、これまでの道のりが順風満帆だったわけではない。高校入学後、けがをしてほぼ1年間は走ることができなかったという。

「日々の練習が辛いのはもちろんですが、それよりも走れないことの方がもっと辛い。あの子の“走りたい”という気持ちが今の自分の原動力になっているのかなと思います」

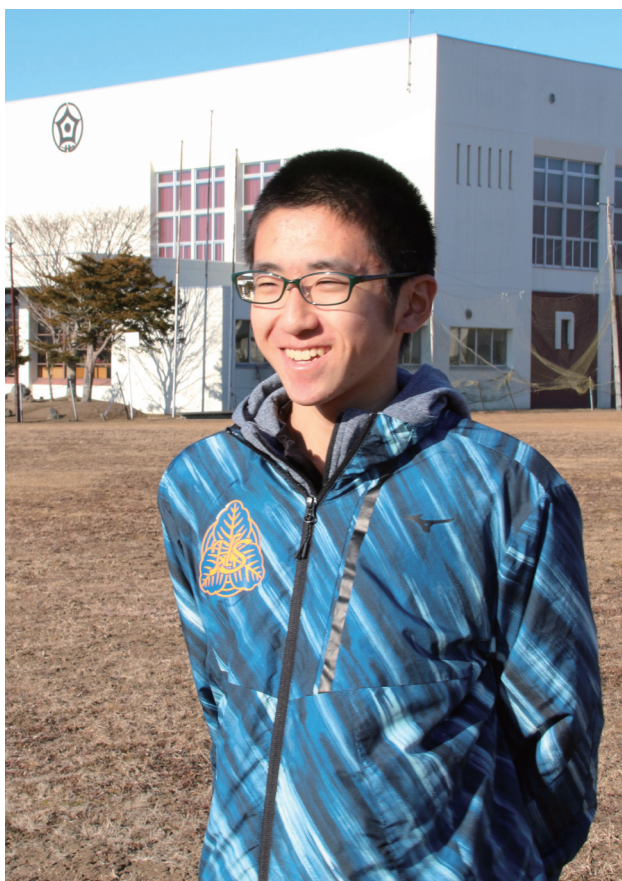
駅伝をやりたいと自分の意志で入ってきた世界。結果がすべての勝負の世界で、これからの道が厳しいことは百も承知だろう。それでも先へ進むのは、単純に走ることが好きだからだ。

「大学に進学し、箱根駅伝に1年目から出て、2年、3年と学年が上がるにつれてチームの主力になれるような選手になりたいです」そう話す小野さんは、すでに次の目標に向かって走り出している。

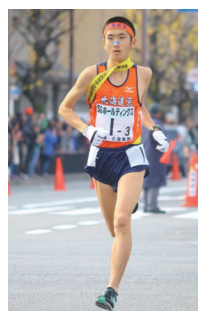
小野隆一郎

おの りゅういちろう

2001年4月21日生まれ。白糠中学校卒業後、駅伝部のある北海道栄高等学校へ入学。帝京大学へ進学予定。兄、妹との3人きょうだい。



「走りたいという気持ちが今の自分の原動力」



前回の第69回全国高等学校駅伝競走大会の様子。2年生で全国大会に初めて出場。3区（約8km）で区間記録17位。小野さんは「初めての全国大会ですごく緊張しました。今大会は、前回大会の経験を生かして、リラックスして走ることができました」と話していました。